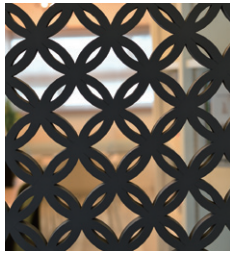
テーマは、「ニュー・エッセンス」。
これからの住まいのあり方を提案する、新モデルハウス。

「新しい価値の創造」を掲げ、上質な注文住宅づくりで評価を高めている株式会社スター・ウェッジ。同社を率い、一級建築士でもある横田知朗氏が手がけた札幌市中央区の新モデルハウスにお邪魔してきました。そのテーマである「ニュー・エッセンス」とは?



細部へのこだわりという本質

ドイツのモダニズム建築の巨匠ミース・ファン・デル・ローエや、同じくドイツの美術史家アビ・ヴァールブルクが残した言葉として知られる「神は細部に宿る」。モノづくりの本質は細部にこそよく現れる、という意味です。

特に建築では設計、工法、材質、仕上げ、見せ方といったそれぞれの細部にこだわり、丁寧に完成度を高める作業を続けた結果、美しく居心地のよい空間が生まれて確かな付加価値が備わります。より良いものを求める方に支持していただこうとすればするほど、細部への心配りはないがしろにできません。今回訪れた新しいモデルハウスには、そんな造り手の想いが隅々に行き届いています。

「ニュー・エッセンス」に込めたもの

この完成後間もないモデルハウスのテーマは、「ニュー・エッセンス」。横田氏によれば、「今までにない上質な暮らしの提案」をコンセプトに「これからの住まいのあり方をひと手間かけたデザインで表現したもの」とのこと。シンプルで広々とした品のあるコートハウスとしてデザインされたたたずまいは、それだけで十分に魅力的ですが、真骨頂は細部のこだわりにあります。その一部をご紹介しましょう。

玄関の床材は、復元されたJR東京駅の屋根にも用いられている宮城県石巻市の雄勝産玄昌石。深みを帯びた黒が、白を基調とした空間を引き締めます。その白を演出しているのがドイツ製の本漆喰(しっくい)。和紙を思わせる自然な風合いは、くつろぎの時間をより落ち着いたものにしてくれるようです。また、カーテンも、創業170年を超える京都の老舗が手がけた上手物が取り付けられています。

そして、何といっても目を引くのが、階段にしつらえられた七宝模様の組子の仕切り。古くから伝わる伝統的な幾何学模様が陽(ひ)射しの具合によって美しい陰影を浮かび上がらせ、すっきりと広がる居住空間に豊かな表情を加えます。こうした細部のデザインの全てに共通しているのは、〝本物にひと手間かける〟ということ。一つひとつにこだわり抜いた質感を味わえるのが、このモデルハウスの醍醐味といえるでしょう。

生活エネルギーにも、新たな提案

さらに、このモデルハウスでは、ハイブリッド地中熱ヒートポンプシステムによる再生エネルギーの活用を北海道で初めて実用化。夏の間に暖まった土の中の熱を冬は暖房に、冬に熱を奪われた土中の冷気を夏の冷房に使うものです。これにより環境負荷を減らし、持続可能な社会づくりへの貢献を目指しています。

生活エネルギー、IT、建材など、さまざまな分野の技術革新が進むにつれ、そうした新しいテクノロジーは住まいのあり方もどんどん変えていくことでしょう。〝伝統〟や〝本物〟がもつ味わいと〝最新〟の技術、デザインが一体となったこれからのモデルハウスがどう進化していくのか、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

取材協力 株式会社 スター・ウェッジ デザイン&アソシエイツ 〒064-0809 札幌市中央区南9条西20丁目1-37 TEL011-522-9484 http://www.starr-wedge.co.jp